

天竜川ダム再編事業 恒久堆砂対策工法検討委員会（第4回）
議事要旨

日時 平成29年11月7日（火）15:00～17:00

場所 オークラアクトシティホテル浜松 3F チェルシー

【議事】

1. 委員会規約（一部改正）
2. 第3回委員会での確認事項
3. 堆砂対策工法
4. 技術開発
5. 実行可能性調査
6. 今後の予定

【議事要旨】

1. 委員会規約（一部改正）

事務局説明 ■ 事務局より規約（一部改正）案を説明

主な意見等 ● 委員全員が了承

2. 第3回委員会での確認事項

事務局説明 ■ 事務局より第3回委員会での確認事項について説明

主な意見等 ● 委員全員が了承

3. 堆砂対策工法および4. 技術開発

事務局説明 ■ 事務局より堆砂対策工法について「掘削（陸上）区間の運搬方法」、「浚渫における使用船舶」および「ストックヤード下流端堰の検討状況」、技術開発について「管路による土砂輸送」、「ベルトコンベヤによる斜行発電」、「船舶の航行等における自動化」および「分級作業の導入」を説明

主な意見等 これに対して委員より以下の意見が出された。

- ダンプトラックの交通量について、どの程度の通過量なら地元を受け入れられるかを検討できないか
- 地元集落への影響を回避する方法として迂回路の整備等も検討し、稼働時のエネルギーコストも含めたコストや環境面への影響を比較した方がよい。
- 浚渫に用いる船舶では、新造船を用いた場合と既存の船舶を用いた場合でも費用の差が小さいため、既存の船舶を活用しつつ、段階的に新造船へ更新を行えば、新技術を取り入れることも可能と考える
- 現状では20年以上稼働している船舶もあるため、耐用年数を実態と合わせたコスト比較も必要

- 土砂濃度の上限は第3回委員会で3万 mg/Lを目安としているが、土砂濃度が魚類等へ与える影響を十分に検討し早急に上限を定める必要がある
- スtockヤードの下流端堰について、土砂濃度を下げることと併せて継続時間も短くなるように検討したほうがよい

5. 実行可能性調査

- 事務局説明 ■ 事務局より実行可能性調査における平成28年度の水理実験結果の報告と平成29年度の模型実験、平面二次元解析について説明
- 主な意見等 ● 下流端堰の一次元解析結果及び模型実験では土砂の粘着性を考慮していないため、平面二次元解析では土砂の侵食特性実験結果をふまえた粘着性を考慮して検討する必要がある
- 侵食特性の評価については、置土実験による土砂の侵食状況からも検証するとよい

6. 今後の予定

- 事務局説明 ■ 事務局より本委員会(第4回)での確認事項と今後の主な検討事項(案)を説明
- 委員長まとめ ● 工法を検討するにあたって、社会性(環境等への影響)、経済性(トータルコスト)、拡張性の観点から進め、また、検討項目をハード的なもの、工法のパーツとなるもの、オペレーション等のソフト的なものに大別し、検討を進めてもらいたい